

第89回

日本社会学会大会

第一日 2016年10月8日(土)

第二日 2016年10月9日(日)

—開催校—

九州大学伊都キャンパス

大会次第

日時	研究発表等	総会・役員会等	会場
10月7日(金) 11:00～13:00 13:00～17:00 13:00～16:00 17:30～19:30		三役打ち合わせ 理事会 英語ワークショップ 拡大評議員会	JR博多シティ 10F 会議室 JR博多シティ 10F 会議室 西新プラザ 中会議室 JR博多シティ 10F 会議室
10月8日(土) 8:30～ 9:30～12:30 12:30～13:10 13:20～14:20 14:20～14:30 14:30～15:10 15:20～18:20 15:20～18:20 18:30～20:00	受付開始 一般研究報告(1) 日本社会学会会長講演 一般研究報告(2) 招待講演	三役打ち合わせ 研究活動委員会 国際交流委員会(トラベルグラン ト受賞者とのランチミーティング) IJJS編集委員会 常任社会学評論編集委員会 研究情報支援委員会 社会学教育委員会 財務委員会 総会 学会奨励賞表彰式 懇親会	各教室 センター2号館 2214 センター2号館 2213 センター2号館 2104 センター2号館 2402 センター2号館 2408 センター2号館 2409 センター2号館 2401 センター2号館 2205 センター2号館 2407 センター2号館 2407 センター2号館 2407 各教室 センター2号館 2407 生協食堂
10月9日(日) 8:30～ 9:30～12:30 10:30～13:00 12:40～13:20 13:20～14:00 14:00～17:30	受付開始 一般研究報告(3) 日韓ジョイントパネル 開催校テーマセッション シンポジウム2:映画上映 ポスターセッション 韓国社会学会会長講演 シンポジウム1 シンポジウム2 日本学術会議共催シンポ ジウム	拡大社会学評論編集委員会 シンポジウム1 打ち合わせ シンポジウム2 打ち合わせ 日本学術会議共催シンポジウム 打ち合わせ	各教室 センター2号館 2304 センター2号館 2403 センター2号館 2406 センター2号館 2103 センター2号館 2104 センター2号館 2401 センター2号館 2409 センター2号館 2402 センター2号館 2407 センター2号館 2404 センター2号館 2406 センター2号館 2403

大会次第・備考

1. 大会参加費	一般会員 5,500 円	大学院生・学生会員	3,500 円
	一般非会員 6,500 円	大学院生・学生非会員	4,000 円
懇親会費	一般 4,500 円	大学院生・学生	3,500 円

大会参加費と懇親会費の事前納入（大会参加費・懇親会費とも事前納入の場合は 1000 円割引）を（株）日本旅行のウェブサイトにて受け付けています。日本社会学会の大会情報ホームページ（<http://www.gakkai.ne.jp/jss/2016/10/08000000.php>）からアクセスしてください。（※懇親会費は、会費減額措置を受けている常勤職にない会員については、学生会員と同額となります。）

学会大会当日の受付は、たいへんな混雑が予想されます。事前納入にご協力をお願いいたします。

- 受付はセンター 2 号館 1 階の 2107 教室です。受付後、必ず名札をご着用くださいますようお願いいたします。大会の運営上、名札をご着用になっていない場合に会場係が確認をさせていただくことがあります。
- 報告要旨は日本社会学会ホームページ上で公開いたします。報告要旨集(冊子)の無料配布は行ないません。ご希望の方には有料で頒布いたします（500 円）。
- 抜き刷り・報告資料交換コーナーをセンター 2 号館 1 階のカフェテリア（会員控室と同じ部屋です）に設置いたします。参加者は論文抜き刷りや報告資料の残部などを置くことができます。出版社などが書籍・雑誌を展示販売する書籍・雑誌コーナーは 2105・2106 教室に設置します。
- 会員控室はセンター 2 号館 1 階のカフェテリアです。クロークもおなじカフェテリアに設置いたします。大会本部は 2108 教室となります。
- 会場では本大会専用のフリー wifi が使用可能です。
- 託児スペースを 2102 教室に用意しております。
- 会場に隣接する生協食堂「ビッグサンド」で両日とも昼食の利用ができます（営業時間：11:00～14:00、土曜は 17:00-19:30 も営業）。コンビニエンスストア（ローソン）も隣接してありますが、日曜（10 月 9 日）は閉店します。キャンパス内や学外にも飲食店が点在していますので、当日案内します（ただし、あまり数はありません）。
- プログラムの修正・変更、報告要旨などについては学会ホームページの大会情報ページをご参照ください。
・日本社会学会 大会情報ページ：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/2016/10/08000000.php>
- 大会開催校の連絡先
第 89 回日本社会学会大会実行委員会（委員長：三隅一人）
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学大学院比較社会文化研究院
jss89ito@scs.kyushu-u.ac.jp
※ FAX は用意しておりません。上記メールアドレスまで、PDF 等の添付ファイルでお送りください。

■会場までの交通案内

会場となる九州大学・伊都キャンパスまでの公共交通をご案内します。

① 飛行機でご到着の場合

「福岡空港」→（地下鉄空港線・JR筑肥線）→「九大学研都市駅」→（昭和バス）→「九大ビッグオレンジ前」（会場のセンター2号館まで徒歩1分）

② 新幹線でご到着の場合（博多駅から）

「JR博多駅」→（地下鉄空港線・JR筑肥線）… [あとは①と同じ]

③ 天神から

「天神」→（地下鉄空港線・JR筑肥線）… [あとは①と同じ]

※所要時間はいずれの場合も、待ち時間を含み50分～1時間を見てください。

※地下鉄は「姪浜（めいのはま）」でJR筑肥線に接続しています。筑前前原・西唐津行き（1時間4-5本運行）に乗車すれば、九大学研都市まで乗り換え不要です。姪浜行きに乗車した場合は、姪浜駅で筑前前原・西唐津行きに乗り換えてください。（姪浜始発の筑前前原・西唐津行きはありません。）

※博多駅・天神からは、本数は限られますが都市高速経由の西鉄バスも運行しています。運行状況や乗り場は下記でご確認ください。

<http://www.nishitetsu.jp/bus/>

※自家用車でお越しの場合は、守衛室で受付をして入構してください（駐車料金 1日 300円）。

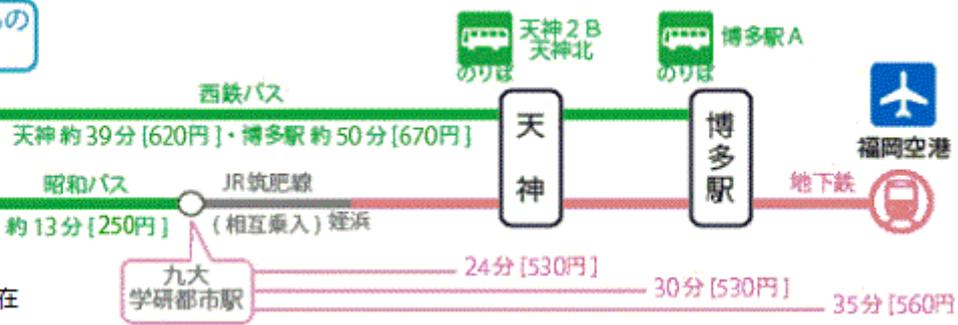
■宿泊について

宿泊予約は、(株)日本旅行のウェブサイトで受け付けています（福岡市西部にはホテルはほとんどありませんので、天神・博多駅近辺のホテルを手配しています）。日本社会学会ホームページ（<http://www.gakkai.ne.jp/jss/meeting/>）からアクセスしてください。

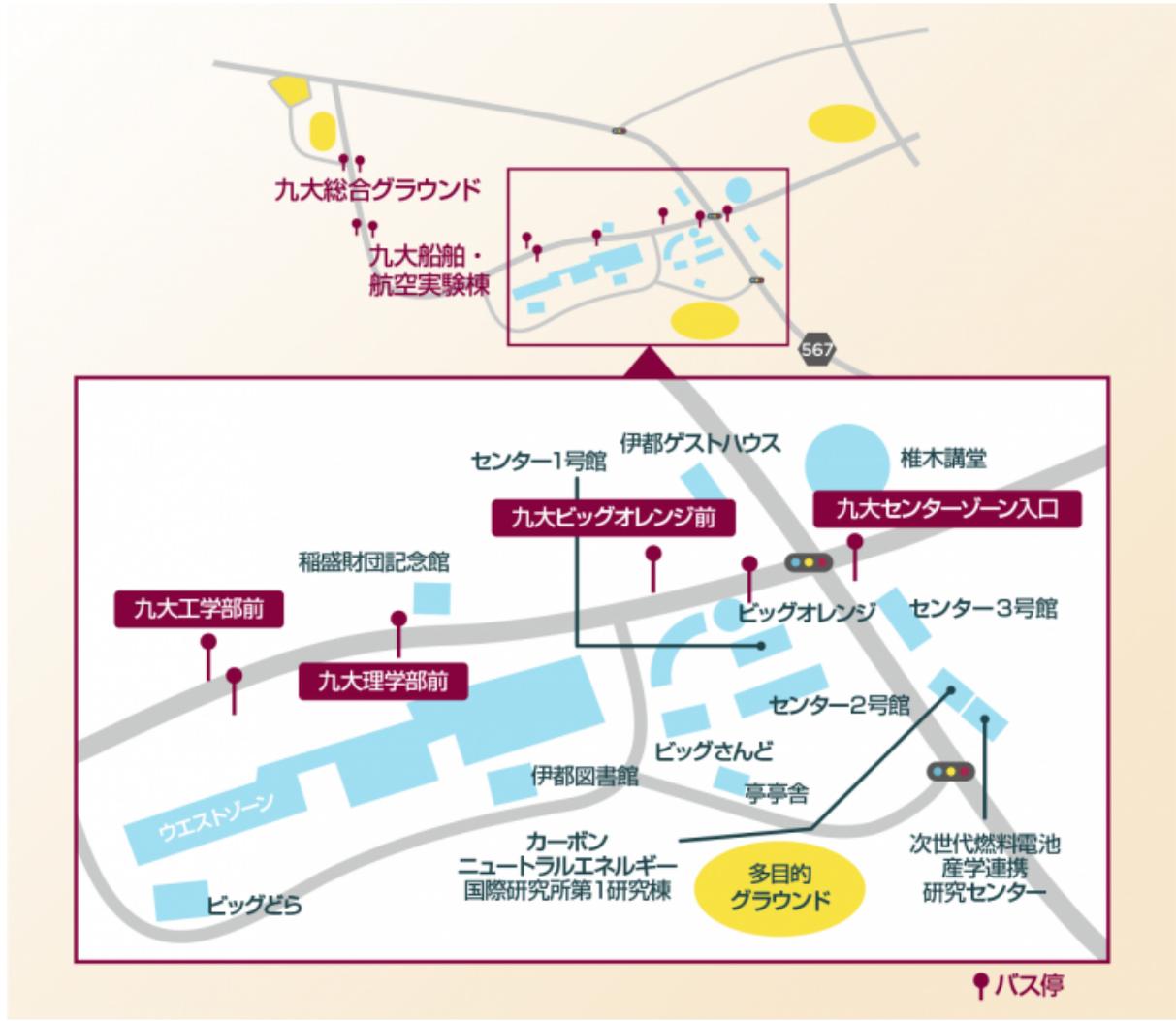
自分で探される場合は、地下鉄空港線・JR筑肥線のアクセスがよいところをお勧めします。

福岡市内主要地からの
所要時間と料金

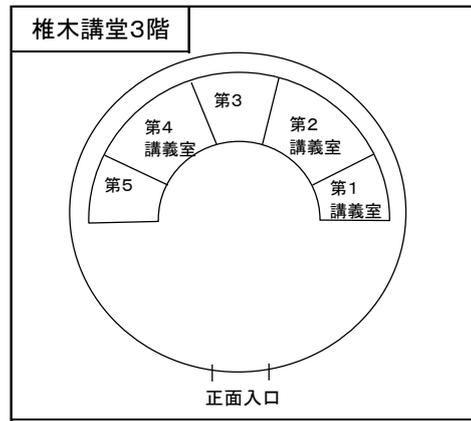
九州大学
伊都キャンパス



*2015年10月1日現在







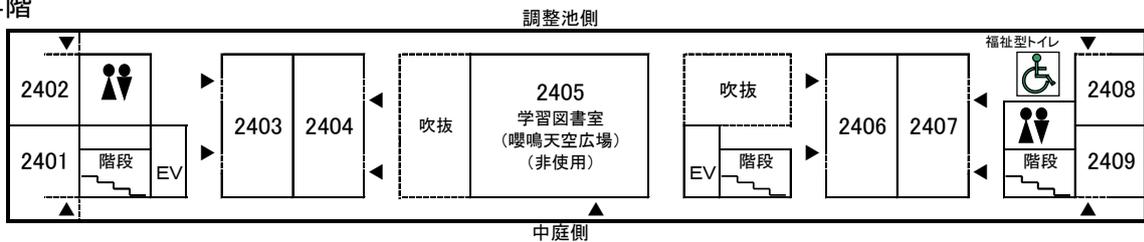
センター2号館

▲印: 出入口

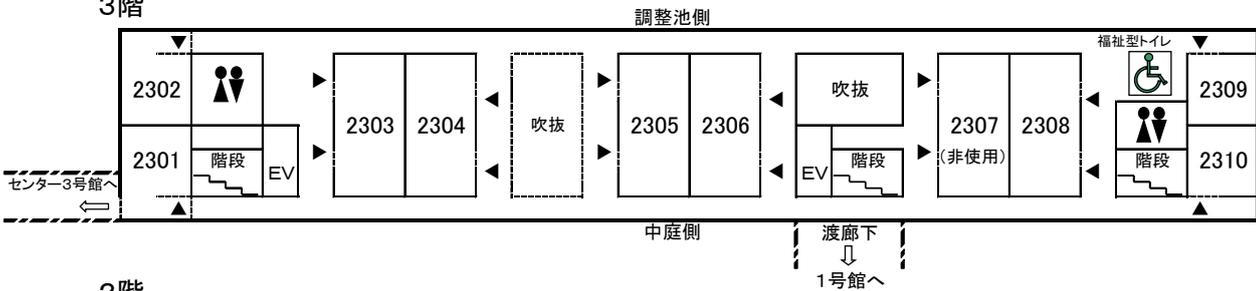
救護室: 比文言文棟104(受付で問い合わせ下さい)



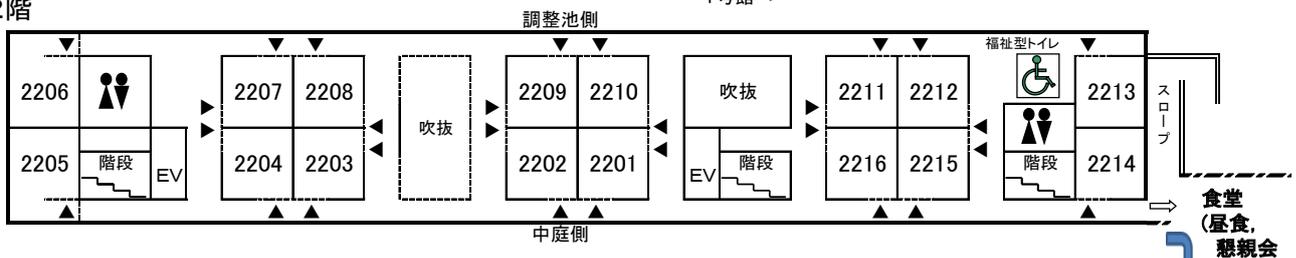
4階



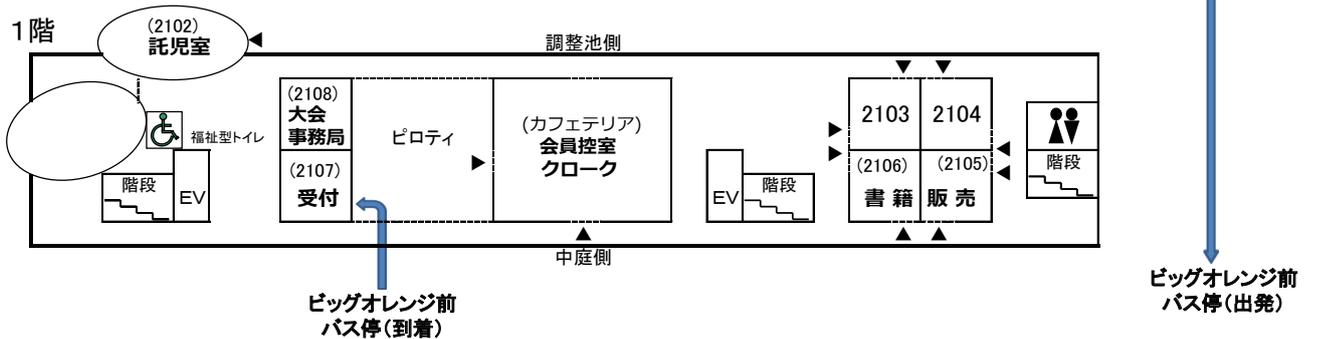
3階



2階



1階



研究報告をおこなううえでの注意事項

1. 共通事項

- 万が一報告をキャンセルする場合は、すみやかに学会事務局（jss@sociology.gr.jp）と大会本部（jss89ito@scs.kyushu-u.ac.jp）の両方に連絡してください。
- タイトルと報告内容は申込時のものから変更できません。
- 部会終了時に配布資料が残った場合は、報告者が持ち帰ってください。会員控室（センター2号館1階のカフェテリア）に設けられた「抜き刷り・報告資料交換コーナー」に置いて配布することもできます。
- 大会会場における無断の撮影行為は控えるようにしてください。
- 開催校でのコピーサービスはありません。

2. 自由報告（一般研究報告Ⅰ）、テーマセッション（一般研究報告Ⅲ）での報告

- 部会開始時間の5分前までに会場に集合して、司会者と打ちあわせをしてください。
- 報告時間は各報告 15分で、そのあとに質疑応答が数分あります。原則として、報告開始後10分で第一ベル、15分で第二ベルが鳴ります。
- 配布するレジュメや資料のコピーは、報告時に最低50部、適宜余部を用意してください。追加資料を配布することもできます。残部は、途中参加者がとりやすい所に積むようにしてください。
- プロジェクタの利用をされる場合は、ご自身でパソコンをご持参ください。
- 会場では、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル（Mini D-Sub15ピン）を利用できます。利用される場合には各自でパソコンをご持参ください。Apple社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタも各自でお持ちください。
- DVDも使用できますが、地上デジタルで録画したコンテンツの再生はできません。ご自分のパソコンで再生できるかたちでご準備下さい。
- パソコン等を使用する場合には、開始15分前に会場にお越しいただき、各報告・セッション参加者と協力・相談のうえ、接続および動作確認をお願いいたします。機器に不具合はつきものですので、万が一に備えて、機器なしでも滞りなく発表できるようにご自身でご準備ください。
- 特に、テーマセッション、研究チームでの報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、事前に報告者間で連絡調整をしてくださいますようお願いいたします。
- その他部会の進行については、司会者の指示にしたがってください。

3. ポスターセッション（一般研究報告Ⅱ）での報告

- ポスターセッションの会場は、センター2号館の2103教室です。
- 部会開始時間の10分前までに会場に集合して、監督者と打ちあわせをしてください。
- ポスターの掲示スペースは、幅180cm、高さ90cm（自立式ホワイトボード）です。
- ポスターの掲示場所は、プログラムに基づいて割りふられています。
- 報告時間は2時間30分です。時間中は基本的にポスターの前において、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨伝えてください。無断で長時間不在の場合、報告が取り止めとされることがあります。
- 資料を配布することもできます（最低50部）用意することを強く推奨します。
- その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

部会一覧

教室番号	10月8日(土)		10月9日(日)
	9:30～12:30	15:20～18:20	9:30～12:30
	一般研究報告(1)	一般研究報告(2)	一般研究報告(3)
2103	テーマセッション(1) 医療と福祉のボランティア	テーマセッション(6) 障害の社会学	ポスターセッション 10:30～13:00
2201	研究活動委員会テーマセッション(1) 社会意識の計量社会学の現在	国際・エリアスタディ(1)	国際・エリアスタディ(2)
2202	地域社会・地域問題(1)	都市(1)	都市(2)
2203	地域社会・地域問題(2)	地域社会・地域問題(3) (沖縄の軍事基地)	地域社会・地域問題(4)
2204	政治	環境(1)	環境(2) (原発問題)
2205	学史・学説(1)	学史・学説(2)	学史・学説(3) (戦前期日本における農村社会学)
2206	理論(1)	理論(2)	研究法・調査法
2207	災害(1) (災害と記憶)	災害(2) (原発避難者)	災害(3)
2208	文化・社会意識(1)	知識・科学(1) (社会学の国際化)	知識・科学(2) (テキストマイニング)
2209	文化・社会意識(2)	文化・社会意識(3)	文化・社会意識(4)
2210	教育(1)	教育(2) (中学生と母親)	社会病理
2211	労働	福祉・保健・医療(2)	福祉・保健・医療(4)
2212	性・ジェンダー(1)	性・ジェンダー(2)	子ども・青年・中高年
2215	テーマセッション(2) アートと社会学の新たな接点	テーマセッション(7) 社会学における〈質的比較分析 QCA〉の可能性	テーマセッション(10) 社会学における概念・理論・方法の移植(transplant) II
2216	テーマセッション(3) 社会学は食の未来をどう構想できるか?(1)	テーマセッション(8) 社会学は食の未来をどう構想できるか?(2)	研活テーマセッション(5) 農業・農村地域の社会解体的危機に抗する〈住民の力〉
2301	歴史・社会史(1)	歴史・社会史(2)	歴史・社会史(3)
2302	Session in English(1)	Session in English(2)	Session in English(3)
2303	研究活動委員会テーマセッション(2) 移民第二世代への社会的アプローチ(1)	研究活動委員会テーマセッション(3) 移民第二世代への社会的アプローチ(2)	福祉・保健・医療(5)
2304	福祉・保健・医療(1)	福祉・保健・医療(3)	日韓ジョイントパネル
2305	情報・コミュニケーション(1)	情報・コミュニケーション(2)	
2306	テーマセッション(4) グローバル化の中の社会運動と集合行動	研究活動委員会テーマセッション(4) 「アクティビズム」の復活と社会運動論	社会運動
2308	テーマセッション(5) 「文化遺産の社会学」を再考する	テーマセッション(9) フィールドワーカーとリスク	テーマセッション(11) 戦争研究の現代的課題
2309	民族・エスニシティ(1) (移民)	民族・エスニシティ(2)	民族・エスニシティ(3)
2310	家族(1) (結婚)	家族(2)	家族(3)
2403			開催校企画テーマセッション
2406			シンポジウム2 連動企画: 映画上映

研究報告題目

第一日 (10月8日)

一般研究報告 (1) (9時30分～12時30分)

学史・学説 (1)

教室 2205

司会者 杉本 学 (熊本学園大学)

1. テクストから見るデュルケム受容 神戸大学 白鳥 義彦 35
2. 日本の社会学系雑誌の知識社会学に向けて (1) ——計量分析を介して見えてくる、『社会学評論』に伴走し、なおかつ挑戦する兆候の芽 甲南大学 栗田 宣義 36
3. 日本の社会学系雑誌の知識社会学に向けて (2) ——社会学の3つの状況 (多様化、拡散、齟齬) を踏まえての考察 神戸市看護大学 檉田 美雄 37
4. 戦後日本社会学史への計算社会科学的アプローチ ——『社会学評論』1954-2015の構造トピックモデルによる分析 東北大学 瀧川 裕貴 38
5. 芸術社会学における制度変化の理論の射程 大阪市立大学 笹島 秀晃 39

理論 (1)

教室 2206

司会者 小松 丈晃 (東北大学)

1. 中世イングランドにおける祝宴や食卓の行儀作法——ノルベルト・エリアスの文明化論から「礼節 cortaysy」と「習わし cynn」を考える 杏林大学 遠山 菊夫 40
2. パーソンス社会学を基盤としたシミュレーション研究についての一考察 ——パターン変数の数理モデルによる表現をめざして 神戸大学大学院 小川 晃生 41
3. アメリカ社会学会における利他主義セクションの可能性——P. A. ソローキンの統合主義社会学の視点 長崎ウエスレヤン大学 吉野 浩司 42
4. マイケル・ブラウォイの労働過程論の再検討——エスノメソドロジ的視点の有効性 一橋大学大学院 松永 伸太郎 43
5. 欧米社会学の合理的選択理論の一整理——狭義版と広義版の比較 広義版内部の比較 東北学院大学名誉教授 久慈 利武 44
6. マルクス主義理論と「資本主義」の「比較」アプローチ 首都大学東京 稲葉 年計 45

家族1 (結婚)

教室 2310

司会者 筒井 淳也 (立命館大学)

1. 若年者の結婚意思決定の研究 (1) ——20代未婚者における交際相手との結婚意欲 労働政策研究・研修機構 高見 具広 46
2. 若年者の結婚意思決定の研究 (2) ——社会経済的地位と結婚意欲が結婚意思決定へと与える影響 東京大学 三輪 哲 47
3. 若年者の結婚意思決定の研究 (3) ——個人の社会関係性が交際から結婚への移行に及ぼす影響 ○内閣府経済社会総合研究所 高村 静 48
内閣府経済社会総合研究所 石田 絢子
4. 学歴同類婚研究の終焉? 慶應義塾大学 鹿又 伸夫 49
5. Who Marries Whom in Japan? Impacts of Asymmetrical Preference by Gender on Assortative Mating The University of Tokyo Fumiya Uchikoshi 50
6. Married Women's Second Childbirth in Contemporary China: the Effect of Son Preference, Education, and the Extended Family University of Oxford Manting Chen 51

地域社会・地域問題 (1)

教室 2202
司会者 下村 恭広 (玉川大学)

- | | | | |
|--|-----------|--------|----|
| 1. 米国の都市内分権組織 (ネイバーフッドカウンシル) における都市サービスのデリバリーシステムの状況について——日本の都市内分権 (まちづくり協議会) との比較 | 福山市立大学 | 前山 総一郎 | 52 |
| 2. 「第三の場所」とネットワークのコンフリクト——大阪・カフェ commons の事例 | 大阪国際大学 | 渡 邊 太 | 53 |
| 3. コレクティブハウジングにおけるコミュニティづくりからまちづくりへ——NPO コレクティブハウジング社の試み | 日本学術振興会 | 稲 見 直子 | 54 |
| 4. コミュニティ論の今日的位相としての協働 | 東洋大学 | 小 山 弘美 | 55 |
| 5. オルタナティブ労働としての地域活動——子育て支援を目的とした〇会の活動休止を事例に | 九州大学大学院 | 里村 和歌子 | 56 |
| 6. 湯治場の現在における滞在と居住 ——ハイデガーの Aufenthalt (アウフェンハルト) が示唆するもの | 明治学院大学大学院 | 永 岡 圭介 | 57 |
| 7. 地域への愛着と定住意識——多摩市内の 5 地区の差違に着目して | 立教大学大学院 | 井 上 公人 | 58 |

地域社会・地域問題 (2)

教室 2203
司会者 中西 典子 (立命館大学)

- | | | | |
|---|------------------------------------|----------------------------|----|
| 1. 地方創生とコミュニティの D L R 理論 | 神戸学院大学 | 金 子 勇 | 59 |
| 2. 中国農村における地域社会の開放性と自律性——北京市郊外一山村の観光地化を事例に | 一橋大学 | 南 裕 子 | 60 |
| 3. 農をやめた中国農家楽山村の観光産業化と村としてのまとまり——北京市第一民俗旅行村・G 村を事例として | 宇都宮大学 | 閻 美 芳 | 61 |
| 4. Living with the Sea: Community fisheries management for conservation and cohesion | University of Aegean | Eirini Ioanna Vlachopoulou | 62 |
| 5. The Renaissance of Creative Rural Communities | 東海大学 | 本 田 量久 | 63 |
| 6. The New Acquaintances Society in Community-Building : Enlightenment of a Local Governance Practice | Sichuan Academy of Social Sciences | ZHANG XUEMEI | 64 |

労働

教室 2211
司会者 高瀬 武典 (関西大学)

- | | | | |
|---|-----------------|--------|----|
| 1. 学歴収益の時点変化——若年層の地位達成に着目して | 静岡大学 | 吉 田 崇 | 65 |
| 2. 労働市場の潜在構造と雇用形態の関係——二重労働市場論をふまえた潜在クラス分析 | | 鈴 木 恭子 | 66 |
| 3. 正規／非正規雇用間の就労上の負担の相違と賃金格差——「突然の残業・休日出勤」の有無に着目して | 東京大学 | 有 田 伸 | 67 |
| 4. 非正規雇用と入職経路——正規雇用への転職のパネルデータ分析 | 東京大学 | 福 井 康貴 | 68 |
| 5. 正社員転換と雇用の安定——男女の違いに着目して | (独) 労働政策研究・研修機構 | 高 橋 康二 | 69 |
| 6. 非正規であることの男女差——従業の地位とメンタルヘルス | 東北学院大学 | 片 瀬 一男 | 70 |
| 7. トヨタ自動車従業員の労働観と地域コミットメント——職住の交差とトヨタイズムの価値の調整 | 名古屋大学 | 丹 辺 宣彦 | 71 |

政治

教室 2204
司会者 森 元孝 (早稲田大学)

1. 占領期日本における観光空間の再編とナショナリティの再構築 北海道大学 遠藤 理一 72
2. 戦後日本の政教分離訴訟の展開——「宗教」「国家神道」をめぐる論争 國學院大學 塚田 穂高 73
3. 政治家の判断基準——ある政策に関する政治家の語り・対人関係 一橋大学大学院 國本 哲史 74
4. 日本における政治的関心、態度の制約、ヘイトスピーチ規制法——Google 検索を用いた比較対象地域の選別 東北大学大学院 五十嵐 彰 75
5. 現代社会における諷刺——「安倍政権」に関する「政治漫画」の分析をもとに 東京情報大学 茨木 正治 76

災害 (1) (災害と記憶)

教室 2207
司会者 植田 今日子 (上智大学)

1. 災害復興期における地域の記憶継承・アイデンティティの再編 ○早稲田大学 浦野 正樹 77
早稲田大学 川副 早央里
早稲田大学 野坂 真
2. 岩手県大槌町における地域の記憶継承とアイデンティティの再編 ○早稲田大学 野坂 真 78
早稲田大学 浦野 正樹
早稲田大学 川副 早央里
3. 浜通り地域における災害記憶の継承と地域アイデンティティの再編 ○早稲田大学 川副 早央里 79
早稲田大学 浦野 正樹
早稲田大学 野坂 真
4. 東日本大震災遺族における「死者との相互行為」——岩手県大槌町を中心に 岩手大学 麥倉 哲 80
5. 被災地の幽霊は社会学のテーマとなりうるのか——霊性と「シェア」をめぐる死者との対話 東北学院大学 金 菱 清 81

文化・社会意識 (1)

教室 2208
司会者 太田 省一

1. 戦後日本アニメにおける戦争観——機動戦士ガンダムシリーズを中心に 上越教育大学 小島 伸之 82
2. オタクコンテンツがつくった闘争の場——台湾におけるオタクコンテンツの流通を例に 九州大学大学院 宋 輝雄 83
3. 日本の女性向けポピュラーカルチャーとしての宝塚歌劇の特徴——台湾の観客の視点から 大阪大学 東 園子 84
4. 中国の男性アイドル・ファンの意識と組織——女性ファンを対象にした調査から 長崎県立大学 吉光 正絵 85
5. オンラインファンコミュニティの研究 ——中国の日本アニメ字幕組を事例として—— 京都工芸繊維大学 程 遥 86
大学院

文化・社会意識 (2)

教室 2209
司会者 間々田 孝夫 (立教大学)

1. サブカルチャーの消費社会的変容の始まり——50s 後半から 60s 前半、戦記マンガの成長と衰退 山形大学 貞包 英之 87
2. クレジットカード社会における浪費——全国調査による検討 文京学院大学 寺島 拓幸 88
3. プロにならないという選択 ——アマチュア楽団参加者の語りから 早稲田大学大学院 高橋 かおり 89
4. 国鉄民営化と鉄道愛好の変容 関西大学大学院 塩見 翔 90
5. 日本における日曜大工趣味の生成と展開 目白大学 溝尻 真也 91

情報・コミュニケーション(1)

教室 2305

司会者 土橋 臣吾 (法政大学)

1. マクルーハン『メディアの理解(メディア論)』論述構造の分析——メディアのホット/クール概念の社会的生産性の高い解釈に向けて 山梨県立大学 大西 康雄 92
2. 地方紙からみる報道の「中立性」の問題 神戸女学院大学 景山 佳代子 93
3. 女兒雑誌における「理想の女性」像の変遷 愛知学泉大学 西原 麻里 94
4. 日本型コミュニティラジオと基幹放送以後の変容の予兆——放送免許返納事例と全国定量調査をもとに 龍谷大学 松浦 さと子 95
5. テレビがもたらす時間意識の再考——1950年代の放送時間・番組編成の分析から 静岡文化芸術大学 加藤 裕治 96

教育(1)

教室 2210

司会者 岩田 考 (桃山学院大学)

1. 若者支援と地域共同体の連携に関する考察 京都大学大学院 井上 慧真 97
2. 子どもの居場所に関する一試論——子ども・若者の「居場所」に関わるスタッフへのインタビュー調査から 武蔵大学 加藤 敦也 98
3. 園児と保育士の社会的時間とタイムマネジメント——就学前教育における発表会に向けた活動の検討から 慶應義塾大学大学院 大久保 心 99
4. 高等教育進学率の都道府県間格差の規定要因——都道府県における教育条件に着目して 京都大学 園部 香里 100
5. 大学が少ない地域の高校生の大学進学意識 筑波大学大学院 津多 成輔 101

福祉・保健・医療(1)

教室 2304

司会者 天田 城介 (中央大学)

1. 障害児の学級参画におけるメンバーシップの不確定性——「児童/障害児」カテゴリーの棄却と前景化 大阪市立大学 佐藤 貴宣 102
2. 妊産婦の抱える周産期の課題 関西学院大学 岡 いくよ 103
3. 生殖補助医療に対する抵抗感の変化——身体制御に注目した考察 大阪大学 竹田 恵子 104
4. 認知症の「本人」の登場はいかになされ、何をもたらすのか? 奈良女子大学 井口 高志 105
5. 「胎児」の発見——福祉国家の出生前診断 立正大学大学院 石田裕美子 106

性・ジェンダー(1)

教室 2212

司会者 石井 由香里 (日本学術振興会)

1. ジェンダーをめぐる言説の相違と立場性について——イヴァン・イリイチの『ジェンダー』を参照点として 立命館大学 安田 智博 107
2. 男性学と「生きづらさ」 昭和大学 須長 史生 108
3. ゴッフマン理論からみるキャリア女性のパーソナリティ 名古屋工業大学 乙部 由子 109
4. スウェーデンにおける「男性のための危機センター」による男性支援——DV対策における男性へのアプローチ 〇四国学院大学 大山 治彦 110
 佛教大学 大東 貢生
 関西大学 多賀 太
 京都大学大学院 伊藤 公雄
5. ジェンダー平等と学校教育制度をめぐる課題探索的検討——男女別学校出身者の語りの分析から 一橋大学大学院 徳安 慧一 111

民族・エスニシティ (1) (移民)

教室 2309

司会者 倉 真一 (宮崎公立大学)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1. 在日バングラデシュ人コミュニティの変化と帰還移民に関する研究 I | ○立教大学 水上 徹男 112
立教大学 野呂 芳明 |
| 2. 在日バングラデシュ人コミュニティの変化と帰還移民に関する研究 II | ○立教大学 野呂 芳明 113
立教大学 水上 徹男 |
| 3. 日系ブラジル人「移住地生活展開論」の再検討——石川県小松市調査をもとに | 北陸学院大学 俵 希 實 114 |
| 4. 日本の移民傾向変動要因——在留資格関連手続における不許可及び不交付の分析 | 立教大学 近藤 秀将 115 |
| 5. 在日中国系ニューカマーの滞在意識 | 神戸大学 張 偉 霞 116 |
| 6. 2011 年民政化以降の滞日ビルマ系難民の家族戦略 | 名古屋学院大学 人見 泰弘 117 |
| 7. ナショナルアイデンティティとニューカマー児童・生徒のアイデンティティ・文化 ——ニューカマー児童生徒を教える教員へのインタビュー調査 | 東京大学大学院 高橋 史子 118 |

歴史・社会史 (1)

教室 2301

司会者 祐成 保志 (東京大学)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 日本型シティズンシップの形成——1950 年代の文化と政治を再考する | 中京大学 亀山 俊朗 119 |
| 2. 高度経済成長期における老いと就労——1963 年『神奈川県高齢者生活実態調査』の復元による 2 次分析 | 成蹊大学 渡邊 大輔 120 |
| 3. 高度成長期のテレビドキュメンタリーが描いた「世代間断絶」——NHK『日本の素顔』『現代の記録』『現代の映像』を対象として | 同志社大学 石岡 学 121 |
| 4. 現代における「昭和ノスタルジア志向」に関する一考察 | 立正大学 浅岡 隆裕 122 |
| 5. 「沖縄」を問題化する力学をめぐる歴史社会学——沖縄「復帰」以降の言説分析 | 日本学術振興会 大野 光明 123 |

Session in English(1)

教室 2302

司会者 竹ノ下 弘久 (上智大学)

- | | |
|---|--|
| 1. Reciprocity in Intergenerational Support: East Asian Societies Studied from a Multilevel Perspective | Southwestern University of Finance and Economics Li Shuanglong 124 |
| 2. Effects of poverty on mental health of school-aged children: the mediating role of social capital | Nanjing University LI Chunkai 125 |
| 3. Institutionalizing Traditional East Asian Medicine within National Medical Systems in China, Korea, and Japan | University of Seoul Jae-Mahn Shim 126 |
| 4. Earnings Returns to Tertiary Education in Urban China, 1988-2008 | Sun Yat-sen University YE Hua 127 |
| 5. From individual to community - women's semi self help groups as a pathway toward gender equality in the politics of difference | Sun Yat-sen University Ding Yu 128 |

医療と福祉のボランティア——病める人・死にゆく人と寄り添う人の社会学 (テーマセッション 1)

教室 2103

司会者 竹中 健 (広島国際学院大学)

- | | |
|---|---|
| 1. The Role of the Volunteer Harassment Advisors and its Possibility - Some suggestions from the efforts of the UK universities - | 北海道大学 川畑 智子 129 |
| 2. 労働者の自殺とボランティア | 広島国際学院大学 山田 陽子 130 |
| 3. 「関係性としてのボランティア」をめぐる合意形成プロセス——コンフリクト・マネジメントを手がかりに | 帝京大学 李 永 淑 131 |
| 4. ある僧侶のライフヒストリー——死に寄り添うボランティア | 広島国際学院大学 栗原 理 132 |
| 5. The Value of Volunteers in End of Life Care (EOL)——A Canadian Experience | University of Windsor M a r i a S . Giannotti 133 |

アートと社会学の新たな接点 (テーマセッション 2)

教室 2215

司会者 岡原 正幸 (慶應義塾大学)

1. 中国現代アートにおける問題の定式化と解決の方法——文革終了から市場解放期 (1970~1990年代) に着目して 東京大学大学院 陳 海 茵 134
2. 体験を《なぞる》、世界を《なぞらえる》——「他者理解」をめぐる交差するアートと社会学 慶應義塾大学大学院 澤田 唯人 135
3. 日常生活における手芸活動を通じた高齢の婦人と社会との関わり——神戸市兵庫区、長田区を対象として 流通科学大学 山下 香 136
4. 記録の「穴」からみえる社会風景——世田谷・地域映像アーカイブにおけるエリシテーションの試み ○東京大学大学院 松本 篤 137
／NPO 法人remo
慶應義塾大学大学院 プルサコバ・アリナ
日本大学 後藤 範 章
5. 「踊る身体」にみるビジュアル調査法の可能性 大阪市立大学 ケイン 樹里安 138
6. 四国遍路の映像社会学——移動する巡礼者と地域住民の動的関係イメージ 慶應義塾大学大学院 後藤 一樹 139
7. 生きられる経験としてのアートベース・リサーチ——アートパフォーマンス『黒い雨』の事例から 広島市立大学 湯浅 正恵 140

社会学は食の未来をどう構想できるか? (1) (テーマセッション 3)

教室 2216

司会者 立川 雅司 (茨城大学)

1. 食を介した「提携関係」概念の研究史的整理 山形県立米沢女子 中川 恵 141
短期大学
2. 食をめぐる政治的関心とその変遷——運動としての「有機」から「オーガニック」へ 東京国際大学 柄本三代子 142
3. オーガニックフェスタにおける生産者と消費者の信頼の構築——ローカル・フード・ガバナンスの理論形成のために 秋田県立大学 谷口 吉光 143
4. アメリカにおけるローカルフード推進運動と食の正義 中央大学 近藤 和美 144
5. 「産業化した有機農業の対抗軸の諸相——カリフォルニアの小規模有機農家の取組みを通して 国際基督教大学 山口 富子 145

グローバル化の中の社会運動と集合行動 (テーマセッション 4)

教室 2306

司会者 鵜飼 孝造 (同志社大学)

1. 感情が規定するフレーム——スリーマイルと福島原発運動の比較研究 日本学術振興会 村瀬 里紗 146
2. トランスナショナル社会運動の興隆と衰退に関する比較研究 日本学術振興会 龍野 洋介 147
3. グローバル化とポスト・コロニアリズムの変容——マレーシアにおけるインド系国民による民族解放運動 駒沢大学 山田 信行 148
4. 香港のインドネシア人家事労働者による宗教文学創作運動からみる (再)生産領域のグローバル化 天理大学 澤井 志保 149
5. 国家の再登場? ——南東欧の国境封鎖に対するローカルの集会的抗議を事例として 中央大学 鈴木 鉄忠 150

「文化遺産の社会学」を再考する（テーマセッション 5）

教室 2308

司会者 木村 至聖（甲南女子大学）

1. 都市祭礼は「何を」競い合っているのか？——長浜曳山祭の子ども歌舞伎（狂言）へのまなざしを手がかりとして 滋賀県立大学 武田 俊輔 151
2. 「遺産」というまなざしを再考する——福山市鞆の浦を事例に 京都女子大学 森 久 聡 152
3. 辺境における産業遺産の文化的価値の構築プロセス——サハリン州に残る日本統治下の製紙工場群を事例に 日本学術振興会 平井 健文 153
4. 文化遺産は社会主義の夢を見るか？——ポーランドのティヒ市における社会主義体制の遺物をめぐって 開智国際大学 菅 原 祥 154
5. 文化遺産としての軍事遺構——横須賀市における軍事遺構の「文化遺産化」 東京都市大学 塚田 修一 155
6. 震災遺構の保存運動と合意形成——いわき市薄磯復興協議委員会の取り組みを事例として 埼玉大学 高橋 雅也 156

社会意識の計量社会学の現在（研究活動委員会企画テーマセッション 1）

教室 2201

司会者 轟 亮（金沢大学）

1. 若年層における現在志向を通じた意識の屈折 日本学術振興会 狭間諒多朗 157
2. 仕事についての価値意識の類型——潜在クラス分析によるアプローチ 立教大学 田 靡 裕祐 158
3. 移動経験という側面からみた現代日本の社会意識の構造——学歴移動・財産取得・主観的社会移動 岩手県立大学 金澤 悠介 159
4. 日本大震災における被害と社会階層の関連——生活と防災についての福島市民意識調査の計量分析 立教大学 村瀬 洋一 160

移民第二世代への社会的アプローチ（1）（研究活動委員会企画テーマセッション 2）

教室 2303

司会者 樋口 直人（徳島大学）

1. 在日フィリピン人の第二世代（1）——「日系」フィリピン人の多様化を中心に 静岡県立大学 高 畑 幸 161
2. 在日フィリピン人の第二世代（2）——改正国籍法施行後の「新日系フィリピン人」のモビリティ 大阪大学 原 めぐみ 162
3. 高等教育への進学を志向しない移民第二世代男性たち——横浜市鶴見区のブラジル系コミュニティのジェンダー化された構造に着目して 日本学術振興会 藤 浪 海 163
4. エスニックコミュニティへの“再”適応——成人期にある移民 1.5 世に注目して 日本学術振興会 平澤 文美 164
5. 「移民の子ども」の進路形成と移住形態——韓国の外国人子女教育政策とモンゴル籍児童生徒のトランスナショナルな教育選択 東京大学大学院 崔 佳 英 165
6. 外国にルーツのある若者の高校・大学進学問題——進路保障の考え方と宇都宮大学の実践 宇都宮大学 田 巻 松雄 166

日本社会学会会長講演 (10月8日(土)14時30分～15時10分)

公共社会学は何をめざすか——グローバル化する世界の中で

教室 2407
日本社会学会会長 盛山 和夫 167

第一日 (10月8日)

一般研究報告 (2) (15時20分～18時20分)

学史・学説 (2)

場所 2205

司会者 保坂 稔 (長崎大学)

1. デュルケーム、モース、レヴィ=ストロースの数理 同志社大学 落合 仁司 168
2. マックス・ウェーバーにおける社会学への「転回」——自然主義的一元論批判との関連で 神戸大学大学院 橋本 直人 169
3. 権威主義の内実——フランクフルト社会研究所第一世代の議論を中心として 一橋大学大学院 額賀 京介 170
4. 批判的社会理論とプラグマティズムの架橋? ——H. マルクーゼのデューイ論を読む 東京大学大学院 馬渡 玲欧 171
5. 社会科学の基礎概念としての帰属概念の系譜学——社会心理学者フリッツ・ハイダーのオーストリア時代の知覚研究から 神戸大学大学院 梅村 麦生 172

理論 (2)

教室 2206

司会者 磯 直樹 (上智大学)

1. 「弱さ」の承認論に向けて 東京大学大学院 井口 尚樹 173
2. 理論社会学のいくつかの概念の随伴による一考察——自己組織性・言語ゲーム論・第三者の審級 日本郵便 大山 智徳 174
3. 他者との不可避の邂逅: その場面と姿形——再帰的近代における「自己のテクノロジー」の外部 千葉商科大学 権 永 詞 175
4. 現代における個の〈代替不可能性〉を保証する共生のあり方について 立命館アジア太平洋大学 清家 久美 176
5. 「方法的個人主義」再考: 「個人と社会」の新しい関係性を探る —— 「スーパーヴィーニエンス」と「諒解」を手掛かりに 甲南女子大学 池田 太臣 177

家族 (2)

教室 2310

司会者 千田 有紀 (武蔵大学)

1. 有配偶女性の就労の規定要因——NFRJ08 パネルデータを用いて 大阪経済法科大学 乾 順 子 178
2. 非対称なニーズをめぐる互酬関係——ケアを含む非家族的共同生活の調査から 日本大学 久保田裕之 179
3. 敗戦直後における家族情緒と共同性の再編——「家」の生活保障の観点から 早稲田大学 本多 真隆 180
4. 現代日本家族の親子生活: 2001年-2011年の生活時間から 城西国際大学 品田 知美 181
5. 親から子への「告知」——出生コホート研究に参加する親の認識と語り方の考察 ○東京大学大学院 李 怡 然 182
東京大学 武藤 香織
6. 〈血縁〉の家族社会学 ——現代の事例を分析するための新たな枠組みへ向けて 高知県立大学 野辺 陽子 183
7. 都市における未就学児の母親の孤立に関する分析 ——地域社会との関りについて 北海道大学大学院 遠山 景広 184

都市 (1)

教室 2202

司会者 齊藤 麻人 (横浜国立大学)

- | | | | |
|---|-----------------------------|-----------------------|-----|
| 1. グローバル都市マニラと都市底辺層 (1) ——構造と変容への視座転換 | 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所 | 青木 秀男 | 185 |
| 2. グローバル都市マニラと都市底辺層 (2) ——スクオッターにおける女性の就労経験からみる新国際分業・再生産労働の国際分業のローカルな解釈 | フェリス女学院大学 | 小ヶ谷千穂 | 186 |
| 3. グローバル都市マニラと都市底辺層 (3) ——周縁のスクオッターの女性サービス労働者 | 立教大学 | 太田麻希子 | 187 |
| 4. グローバル都市マニラと都市底辺層 (4) ——スクオッター強制撤去・再居住・階層分化 | 北海道大学 | 石岡 丈昇 | 188 |
| 5. グローバル都市マニラと都市底辺層 (5) ——都市空間の再編とストーリーベンダーの階層化 | 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所 | 吉田 舞 | 189 |
| 6. The Accidental Reconstruction of Colonial Legacy in Hong Kong: A Sociological Review of Built Heritage Revitalisation since 1997 | The University of Hong Kong | Gary Pui-fung Wong | 190 |
| 7. Postindustrial urban development and class politics: A case study of Poland | University of Lodz | Magdalena Rek-Wozniak | 191 |

地域社会・地域問題 (3) (沖縄の軍事基地)

教室 2203

司会者 安藤 由美 (琉球大学)

- | | | | |
|---|----------|-------|-----|
| 1. 沖縄の軍事基地と地域社会 (1) ——土地接収・基地建設は何をもたらしたのか | 関西大学 | 南 裕一郎 | 192 |
| 2. 沖縄の軍事基地と地域社会 (2) ——浦添市における自治会と郷友会 | 関西大学 | 栄沢 直子 | 193 |
| 3. 沖縄の軍事基地と地域社会 (3) ——北谷町の郷友会 | 同志社大学 | 武田 祐佳 | 194 |
| 4. 沖縄の軍事基地と地域社会 (4) ——北部の軍用地と自治組織 | 佛教大学大学院 | 牧野 芳子 | 195 |
| 5. 沖縄の軍事基地と地域社会 (5) ——軍用跡地の再開発とアクター：アワセゴルフ場を事例として | 同志社大学 | 山本 素世 | 196 |
| 6. 沖縄の軍事基地と地域社会 (6) ——変容する読谷村の自治組織 | 大阪人間科学大学 | 杉本久未子 | 197 |

環境 (1)

教室 2204

司会者 寺田 良一 (明治大学)

- | | | | |
|--|---------|-------|-----|
| 1. 環境ガバナンス時代における環境制御システム論の理論射程——環境制御システム論の再検討・その1 | 信州大学 | 茅野 恒秀 | 198 |
| 2. Ecological Modernization/Treadmill of Production と環境制御システム論の比較——環境制御システム論の再検討 その2 | 関東学院大学 | 湯浅 陽一 | 199 |
| 3. 戦後日本の河川事業における環境制御システムの変容——環境制御システム論の再検討・その3 | 北海道教育大学 | 角 一典 | 200 |
| 4. 環境制御システムと軍事システム——環境制御システム論の理論と応用・その4 | 愛媛大学 | 朝井 志歩 | 201 |
| 5. 船橋社会学理論にもとづく再生可能エネルギー事業の分析 ——環境制御システム論の再検討・その5 | 関西大学 | 大門 信也 | 202 |
| 6. 受益圏・受苦圏の政策論的応用——戦後日本のダム事例を中心として | 名古屋市立大学 | 浜本 篤史 | 203 |
| 7. ごみ問題にかかわる意識と行動の変化——仙台市民の10年間 | 中央大学 | 篠木 幹子 | 204 |

災害 (2) (原発避難者)

教室 2207

司会者 原田 峻 (立教大学)

1. 原発避難者の生活再編と地域再生 (1) ——福島県富岡町の事例から 淑徳大学 松 菌 (橋 本) 祐 子 205
2. 原発避難者の生活再編と地域再生 (2) ——復興政策と生活再建の狭間で変容する被災元コミュニティ 高崎経済大学 佐藤 彰彦 206
3. 原発避難者の生活再編と地域再生 (3) ——新潟県への広域避難を事例として 新潟大学 松井 克浩 207
4. 原発避難者の生活再編と地域再生 (4) ——ベクレルフリーを求めて東京圏から避難・移住する人々 日本大学 後藤 範章 208
5. 原発避難者の生活再編と地域再生 (5) ——中間的考察と今後の研究課題 関西大学 菅 磨志保 209
6. 内部被ばく検査結果通知診療場面における医師による説明——医療場面におけるケア実践の相互行為分析 日本学術振興会 黒嶋 智美 210
7. 内部被ばく検診結果報告の相互行為における身体性と発話——医療場面におけるケア実践の相互行為分析 立教大学 須永 将史 211

知識・科学 (1) (社会学の国際化)

教室 2208

司会者 李 妍炎 (駒澤大学)

1. 社会学の国際化に関する研究 (1)——序論：社会学の国際化とは何か 一橋大学・成城大学 矢澤修次郎 212
2. 社会学の国際化に関する研究 (2)——日本社会学会員調査の概要と横浜大会参加者調査との比較 専修大学 金井 雅之 213
3. 社会学の国際化に関する研究 (3)——国際的研究活動関与の諸類型 山形大学 山本 英弘 214
4. 社会学の国際化に関する研究 (4) 世代／ジェンダーから考える ——世代／ジェンダーから考える 京都大学 伊藤 公雄 215
5. 社会学の国際化に関する研究 (5)——国際化をめぐる視線と課題 成城大学 西原 和久 216
6. 社会学の国際化に関する研究 (6)——世界社会学会議横浜大会を超えて 東北大学 長谷川公一 217

文化・社会意識 (3)

教室 2209

司会者 田辺 俊介 (早稲田大学)

1. 保守主義者は反学問的なのか? ——政治と科学に関する意識調査より 京都大学 太郎丸 博 218
2. 科学教育は歴史観・政治観を保守化させるか? ——「政治と科学に関する意識調査 (PIAS)」より 京都大学 山本 耕平 219
3. 知識所有が外国好感度に与える影響 ——「政治と科学に関する意識調査 (PIAS)」の分析 株式会社原子力安全システム研究所 藤田 智博 220
4. 日本における争点態度の構造——PIAS 調査のデータを用いた分析 京都大学 池田 裕 221
5. 排外主義への態度——「政治と科学に関する意識調査」の分析から 京都大学 荻原 宏章 222
6. 定住外国人増加に対する態度とその変化——東大社研・若年壮年パネル調査データを用いた実証分析 東京大学 石田 賢示 223

情報・コミュニケーション(2)

教室 2305

司会者 鈴木 謙介 (関西学院大学)

- | | | | |
|---|--------------|-------|-----|
| 1. 動機の文法としてのメディア論——若者言説における「メディア」概念の用法に関する分析 | 東京大学大学院 | 小川 豊武 | 224 |
| 2. デジタル・アーカイブの統合による地域メディア研究の再構築——コミュニケーション・デザインとしての地域映像アーカイブ | 新潟大学 | 原田 健一 | 225 |
| 3. 「ネットいじめ」事件に見る「投稿者」問題の顕在化 | 早稲田大学 | 北嶋 健治 | 226 |
| 4. ブログというパーソナル・メディア表象のリアリティ——アーチャーの reflexivity 理論と the morphogenetic approach から | 大分県立芸術文化短期大学 | 光野 百代 | 227 |
| 5. 中国に流行する分類系ネット流行語の生成及び流行原因の再考察——近代化におけるアイデンティティ変容と消費社会に着目して | 首都大学東京大学院 | 張 少君 | 228 |
| 6. スマートラーニングをベースにした電子書籍の活用が学習満足度に及ぼす影響 | 同徳女子大学校 | 李 知妍 | 229 |

教育(2) (中学生と母親)

教室 2210

司会者 石川 由香里 (活水女子大学)

- | | | | |
|--|-----------|---------|-----|
| 1. 中学生の進路希望の格差・不平等へのアプローチ——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (1) | 東京大学 | 藤原 翔 | 230 |
| 2. 乳幼児期の教育・保育経験に影響を与える要因の検討——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (2) | 東京大学 | 苔米 地なつ帆 | 231 |
| 3. 母親の就業状態と家族構造が親子の関わりに与える影響——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (3) | 首都大学東京大学院 | 斉藤 裕哉 | 232 |
| 4. 子どもの貧困と進学希望・教育期待——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (4) | 東京大学 | 斉藤 知洋 | 233 |
| 5. 家庭の経済状態による教育費負担と進路選択の格差——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (5) | 新潟大学 | 古田 和久 | 234 |
| 6. 中学生の子どもをもつ母親の教育期待と世帯の経済的多様性——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (6) | 大阪大学 | 白川 俊之 | 235 |
| 7. 職業希望に関する意味世界の計量テキスト分析——中学生と母親パネル調査 (JLPS-J) データを用いた分析 (7) | 法政大学 | 多喜 弘文 | 236 |

福祉・保健・医療(2)

教室 2211

司会者 中川 輝彦 (熊本大学)

- | | | | |
|--|---------|-------|-----|
| 1. なぜ「多剤処方」は続くのか——医師-患者間に作用する認知バイアスの研究 | 県立広島大学 | 澤田 千恵 | 237 |
| 2. 自己のなかに脳はどのように位置づけられるのか——精神科薬物療法経験者の語りを事例として | 東京大学大学院 | 櫛原 克哉 | 238 |
| 3. 精神科診察場面の会話分析——投薬はいかに達成されるか | 一橋大学大学院 | 河村 裕樹 | 239 |
| 4. 研究参加者意識の醸成過程と獲得の意義——臨床試験に関与した患者の語りから | 東京大学 | 吉田 幸恵 | 240 |
| 5. アティピカル・インタラクションのエスノメソドロジー／会話分析の展開——ALSの人による口文字コミュニケーションから | 北星学園大学 | 水川 喜文 | 241 |
| 6. 病いの語りにおける「地域的文脈」の重要性 ——石垣島・波照間島に住む希少性難病疾患患者の語りから | 大阪大学大学院 | 上野 彩 | 242 |

福祉・保健・医療 (3)

教室 2304

司会者 蘭 由岐子 (追手門学院大学)

1. ケアの互酬性における脆弱性の機能——フランスのアソシアシオンによるケア実践の事例から 大阪大学大学院 樋口 麻里 243
2. 高齢者ケア施設の管理職の日米比較研究——模範的な2つの事例分析 鹿児島大学 片桐資津子 244
3. 高齢者サロンの役割構造——ゴフマンの相互行為論の視点から 東北工業大学 木村 雅史 245
4. アサイラムをアジールとして生きる——あるハンセン病療養所入所者からの聞き取り 埼玉大学名誉教授 福岡 安則 246
5. “引き裂かれる”被害, “語れない”被害 ——〈ハンセン病家族〉聞き取り調査から 東北学院大学 黒坂 愛衣 247
6. 沖縄ハンセン病罹患者の鹿児島収容 ——戦前期沖縄のハンセン病問題と星塚敬愛園 山口県立大学 中村 文哉 248

性・ジェンダー (2)

教室 2212

司会者 森山 至貴 (早稲田大学)

1. セックス/ジェンダー/セクシュアリティの相互関係の再定式化——J・ラプランシュによるフェミニズムの理論的再検討— 京都大学大学院 古川 直子 249
2. 「LGBT」から取り残されるもの——セクシュアルマイノリティにおける分断の顕在化と新たな連帯の模索 早稲田大学 志田 哲之 250
3. セクシュアリティの可能性に関する考察——レズビアン・バーにおける当事者の語りから 関西学院大学 小田二元子 251
4. Male Homosexuality in Japan from the Perspective of Younger Generation: An Attitudinal Study of College Students Kyushu University Zhang Tianqi 252
5. The Gender Performance and Migration Experience of Transpinay Entertainers in Japan Tamagawa University / Waseda University Okada Tricia 253
6. 仮性包茎カテゴリーの使用法にみる男性身体 of 歴史社会学的考察 —— 1890-1940 年代の包茎にかんする実態調査を中心に 東京経済大学 澁谷 知美 254

民族・エスニシティ (2)

教室 2309

司会者 渡辺 雅子 (明治学院大学)

1. ホスト社会沖縄と南米系日系人 (1) ——文化資本に基づくネットワークとその継承 琉球大学 鈴木 規之 255
2. ホスト社会沖縄と南米系日系人 (2) ——南米系日系人のネットワークと社会関係資本 琉球大学 崎濱 佳代 256
3. 華人・華僑の移住とそのネットワーク——関西の福清籍華人・華僑を中心に 同志社大学 陸 麗君 257
4. 韓国における結婚移住女性の組織形成——カテゴリーからアクターへ 福岡女子大学 徐 阿貴 258
5. カトリック教会による移民支援の重層性——多文化共生論の視点から 関西学院大学 白波瀬達也 259
6. ベトナム難民の地域定住とカトリック教会——エスニック・アソシエーションとの関係性に注目して 東洋大学 高橋 典史 260
7. 「非集住地域」における結節点としてのカトリック教会——地方在住のフィリピン系信徒の動向から 聖カタリナ大学 徳田 剛 261

国際・エリアスタディ (1)

教室 2201

司会者 鶴巻 泉子 (名古屋大学)

- | | | | |
|---|--------|-------|-----|
| 1. ドイツ連邦共和国における庇護権の形成——1950年代の連邦議会議事録の分析から | 東京大学 | 安齋 耀太 | 262 |
| 2. 国境地域における歴史認識をめぐる戦略——イタリア・南ティロールの事例 | 和洋女子大学 | 秦泉寺友紀 | 263 |
| 3. 二つの民族集団間の境界線と都市空間における表象——北アイルランドの地域メディアと学校教育に注目して | 九州大学 | 福井 令恵 | 264 |
| 4. 英国における移民と排外主義 | 北海道大学 | 樽本 英樹 | 265 |
| 5. 地域主義とトランスナショナリズムの交錯するところ——バルセロナ市における移民包摂政策の諸戦略とその問題点 | 一橋大学 | 小井土彰宏 | 266 |
| 6. 北アイルランドにおけるコミュニティ開発——紛争後社会における「公的なもの」の可能性 | 愛知県立大学 | 福岡 千珠 | 267 |

歴史・社会史 (2)

教室 2301

司会者 石岡 学 (同志社大学)

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1. 近代都市における新興自営業主の経営資源と社会移動プロセス——渋沢栄一「耕牧舎」と芥川龍之介実父の搾乳業経営 | 早稲田大学 | 武田 尚子 | 268 |
| 2. 近代日本と産業合理化——「能率」をてがかりに | 成城大学 | 新倉 貴仁 | 269 |
| 3. 炭鉱閉山に伴う広域移動経験者のライフストーリー——生活世界の再構築に着目して | 東日本国際大学 | 坂田 勝彦 | 270 |
| 4. 公営住宅住民の地域生活——公営住宅と社会的排除研究 (2) | 大阪府立大学 | 西田 芳正 | 271 |
| 5. 戦後日本における小売業の構造変化とその要因——1960年代の商業コンサルタントによる商業近代化運動に着目して | 東京大学大学院 | 林 凌 | 272 |
| 6. 那覇・マチグワーにおける「公設市場」の存立機制 | 学習院大学 | 新 雅史 | 273 |

Session in English(2)

教室 2302

司会 吉野 耕作 (上智大学)

- | | | | |
|--|------------------------------------|----------------------------------|-----|
| 1. Images of Japan through non-Japanese potters living in the country | Tokyo Metropolitan University | Granja Pereira De Morais Liliana | 274 |
| 2. Methodological Colonialism in Academic Publishing? Geographic Markers in Three Journals from Japan, Turkey and the US | KOC University | ERGIN Murat | 275 |
| 3. Taiwan's Developmental State and the Path of Energy Transition | Chinese culture University | C h e n Ying-Feng | 276 |
| 4. Artist welfare policy and the possibility of identity politics: the case of Korean Artist Welfare Act | Seoul National University | Jung Pil Joo | 277 |
| 5. The American National Flag and American Congregations | International Christian University | 石生 義人 | 278 |

障害の社会学 (テーマセッション 6)

教室 2103

司会者 榊原 賢二郎 (東京大学)

1. 健全性への希求と包摂的社会——人工社会シミュレーションによる検討 日本学術振興会 石島健太郎 279
2. 意思表示の図れない利用者への支援——語られないシグナルを読む 専修大学 西角 純志 280
3. 自己を愛するための社会的支援の重要性について——自分はクズ、或いは、世界なんてクソッたれだと思ふ生き辛い発達障害者のため 立教大学 田野 綾人 281
4. 「共生共育」の思想——1970年代における子供問題研究会の歴史から 名寄市立大学 堀 智久 282
5. 「障害」のある教師についての社会学的研究——13名の教師との対話から ○常葉大学 羽田野真帆 283
筑波大学 照山 絢子
大阪市立大学 松波 めぐみ
6. 障がいとインクルーシオン 北星学園大学 U. Nennstiel 284

※本テーマセッションでは、報告や質疑の内容をその場で要約筆記しスクリーンに投影する予定です。また、視覚障害等により、紙媒体のレジュメを読むことが難しい方には、各報告者が作成した報告資料のデータを事前にお送りします。10月1日から5日ぐらいの間に下記アドレスまでメールを下さい。
榊原賢二郎 sakakibara_kenjirou@yahoo.co.jp

社会学における〈質的比較分析 QCA〉の可能性 (テーマセッション 7)

教室 2215

司会者 齋藤 圭介 (明治大学)

1. 「大人」の条件——ブール代数による社会的カテゴリーの分析 吉田 俊文 285
2. プロスポーツ競技におけるアンチ・ドーピング施策の規定要因の分析——QCAを用いた国際自転車競技連合(UCI)の事例分析 学習院大学 姫野 宏輔 286
3. 「善い社会」イメージの多様性とその規定因 東京大学 赤川 学 287
4. 集合論的社会的カテゴリー論の展開 大阪経済大学 石田 淳 288

社会学は食の未来をどう構想できるか? (2) (テーマセッション 8)

教室 2216

司会者 立川 雅司 (茨城大学)

1. 2000年以降の日本の「食農問題」の論点整理——日本版フードポリシー・カウンシルに向けて ○総合地球環境学 太田 和彦 289
研究所
京都大学 秋津 元輝
2. 食と農をめぐる課題と食育——愛知県安城市の農業者による食育活動を事例に 名古屋文理大学 中村 麻理 290
3. Eat later, waste less: the practical utilization of leftover food Homemaker 酒井信一郎 291
4. 遺伝子組換え作物からゲノム編集生物へ—GM技術のゲノム科学的転換は食と農に何をもたらすか 東京都市大学 大塚 善樹 292

フィールドワーカーとリスク (テーマセッション 9)

教室 2308

司会者 木下 衆 (関西大学)

- | | | | |
|---|--------------|-------|-----|
| 1. 女性研究者とフィールドワークのリスク——ハラスメントの事例とそれらへの対処の検討 | ハインリッヒ・ハイネ大学 | 松田さおり | 293 |
| 2. スティグマの公表——「不法入国」をいかに語るか | 神戸大学 | 朴 沙 羅 | 294 |
| 3. どこまで書くのか——軽度障害当事者として、研究者として | 大阪市立大学 | 秋風 千恵 | 295 |
| 4. 性を調査する——性的冒険主義に見る主体とリスク | 日本学術振興会 | 大 島 岳 | 296 |
| 5. フィールドワーカーと研究倫理——質的調査に関する倫理審査と倫理綱領の検討を通して | 山口大学 | 秋谷 直矩 | 297 |

移民第二世代への社会的アプローチ (2) (研究活動委員会企画テーマセッション 3)

教室 2303

司会者 樋口 直人 (徳島大学)

- | | | | |
|--|---------------|----------------|-----|
| 1. 移民第二世代青年期のエスニシティ間比較 (1) ——調査研究の概要とインドシナ難民の事例 | 日本女子大学 | 清水 睦美 | 298 |
| 2. 移民第二世代青年期のエスニシティ間比較 (2) ——中国帰国者三世の文化変容パターン | 職業能力開発総合大学校 | 坪田 光平 | 299 |
| 3. 移民第二世代青年期のエスニシティ間比較 (3) ——ブラジル系ニューカマーの事例 | 鳥取大学 | 児 島 明 | 300 |
| 4. 移民第二世代青年期のエスニシティ間比較 (4) ——ペルー系ニューカマー第二世代の事例 | 静岡県立大学 | 角替 弘規 | 301 |
| 5. 移民第二世代青年期のエスニシティ間比較 (5) ——フィリピン系ニューカマーの事例 | ○和光大学
中京大学 | 額賀美紗子
三浦綾希子 | 302 |
| 6. 彼が「2世」である理由——在日朝鮮人 A さんの事例からの世代概念再考 | 立教大学 | 橋本みゆき | 303 |
| 7. 日本社会の「ハーフ」をめぐる家族・学校・労働市場・街頭——コンネルのレジーム理論によるライフストーリー分析 | 一橋大学大学院 | 田口ローレンス
吉 孝 | 304 |

「アクティビズムの復活」と社会運動論 (研究活動委員会企画テーマセッション 3)

教室 2306

司会者 西城戸 誠 (法政大学)

- | | | | |
|--|--------------|-------|-----|
| 1. 1960年代学生運動参加者の運動観と政治観——歴史化される社会運動と社会運動論 | 京都大学 | 小杉 亮子 | 305 |
| 2. 戦後沖縄における女性と復帰運動——沖縄教職員会を中心に | 日本女子大学 | 高橋 順子 | 306 |
| 3. 社会運動の担い手の連続性と断続性——日本軍「慰安婦」問題解決運動を事例に | 一橋大学 | 永山 聡子 | 307 |
| 4. 社会運動研究における理論・方法の再検討——組織・説明中心パラダイムをこえて | ノートルダム清心女子大学 | 濱西 栄司 | 308 |

招待講演

教室 2407

話者 今年度の日本社会学会奨励賞受賞者

第二日 (10月9日)

一般研究報告 (3) (9時30分～12時30分)

学史・学説 (3) (戦前期日本における農村社会学)

教室 2205

司会者 蘭 信三 (上智大学)

1. 戦前期日本における「農村社会学」の成立・展開過程の再検討 (1) —— さまざまな農村社会論のなかから 東京国際大学 高田 知和 309
2. 戦前期日本における「農村社会学」の成立・展開過程の再検討 (2) —— 昭和初期における「農村社会学」著作群を通じて 青山学院大学 矢野 晋吾 310
3. 戦前期日本における「農村社会学」の成立・展開過程の再検討 (3) —— 新資料を踏まえた石神調査の再検討から 岩手県立大学 三須田 善暢 311
4. 戦前期日本における「農村社会学」の成立・展開過程の再検討 (4) —— 竹内利美の農村研究から 神奈川大学 牧野 修也 312
5. 戦前期日本における「農村社会学」の成立・展開過程の再検討 (5) —— 農村社会学の「狭域」化と「広域」論の可能性 広島大学 福田 恵 313

研究法・調査法

教室 2206

司会者 稲葉 昭英 (慶應義塾大学)

1. 社会調査のデータ分析の諸技法の位置と性格——8か国における宗教意識調査を事例として 青山学院大学 真鍋 一史 314
2. 無作為標本ウェブ法調査の回答者の特性——訪問面接調査との比較から お茶の水女子大学 杉野 勇 315
3. 自治体投票率データの調査設計における利用に関する研究——2004年参院選を事例として 情報・システム研究機構統計数理研究所 前田 忠彦 316
4. 高齢者対象の自記式調査は誰が回答しているのか? 三育学院大学 篠原 清夫 317
5. 調査票調査における「社会的望ましさ」バイアスの検証——実験的デザインにもとづくモード比較調査データによる分析 金沢大学 小林 大祐 318
6. 対話型コミュニケーション・データの分析技法の研究——新たな会議録分析技法の提示 東京大学 島田 昭仁 319
7. 多変数順位相関係数の構築 九州大学 鈴木 譲 320

家族 (3)

教室 2310

司会者 村上 あかね (桃山学院大学)

1. 若年層の結婚と出会いの規定要因に関する国際比較研究——日本・韓国・シンガポール3か国比較調査をもとに 東京学芸大学 小澤 昌之 321
2. 婚活における三高神話は崩れたのか ——えひめ結婚支援センターを事例としたイベント・ヒストリー分析 ○成蹊大学 小林 盾 322
えひめ結婚支援センター 能智千恵子
3. 女性の二重労働が睡眠時間と幸福度に及ぼす影響 ○専修大学 秋吉 美都 323
富山大学 中村真由美
4. 母乳育児期間が第二子出生に与える影響 ——福井市データのイベントヒストリー分析 富山大学 中村真由美 324
5. 現代日本若年女「子育て」をめぐる3つのデータの考察——「脱・過剰自己実現欲求」女? / 「豊かな男」の新たなフロンティア? / 「生きづらい男」の最終アジール? 鹿児島大学 桜井 芳生 325
6. 包括的な生活支援としてのひとり親の介護職育成策の検討 島根県立大学 齋藤 暁子 326
7. メルボルンの高齢女性のパーソナル・ネットワークとソーシャル・サポート 岡山大学 野邊 政雄 327

都市 (2)

教室 2202
司会者 高木 恒一 (立教大学)

- | | | |
|--|---------------|--------------------|
| 1. 伝統的都市緑地の半公共的機能と都市化におけるその変容 ——インドネシア・バリ島のテラジャカンについての社会生態学的研究 | ○近畿大学
岡山大学 | 菱山 宏輔 328
加藤 禎久 |
| 2. 2000年代における野宿者の析出過程 | 東洋大学 | 渡 辺 芳 329 |
| 3. 東京大都市圏の構造変化の方向と論理——1990年から2010年までの変化に関する考察 | 明治学院大学 | 浅川 達人 330 |
| 4. 都市建築の高層化によるスカイラインの出現——20世紀初頭におけるアメリカの記号技術 | 東京大学 | 青山 賢治 331 |
| 5. シンガポールにおける1950年代までの団地生活 | 滋賀大学 | 鍋 倉 聰 332 |
| 6. 都市住民における「流さない精霊流し」の位置づけ——大阪市内の「精霊流し」における生と死の都市社会学・試論 | 京都大学大学院 | 堂本 直貴 333 |

地域社会・地域問題 (4)

教室 2203
司会者 鱒坂 学 (同志社大学)

- | | | |
|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 八重山郷友会における伝統芸能と「八重山イメージ」の形成について——本土復帰後の「九州バガースマの会」の活動を中心として | 拓殖大学 | 桃 塚 薫 334 |
| 2. 日本とフィリピンの互助慣行の比較 | 流通経済大学 | 恩田 守雄 335 |
| 3. 地域文化の創出と継承 ——根釧パイロット・ファームの開拓記念祭を事例に | 宮城教育大学 | 何 淑 珍 336 |
| 4. 地域における鳥獣被害——離島(大崎上島町)におけるイノシシ被害の現況 | ○広島国際大学
広島商船高等専門学校
広島大学
沖縄大学 | 諫山 憲司 337
柴山 慧
布施 正暁
宮城 能彦 |
| 5. 近現代における宮座の変容と持続——江辻のお日待ち(福岡県)を事例として | 九州大学 | 山口 信枝 338 |
| 6. 山梨県富士吉田市の御師の現状 ——御師へのアンケート調査から | 大東文化大学大学院 | ワグシュレヤ 339 |
| 7. 寺院護持の論理と「兼職」——浄土真宗本願寺派住職の語る世襲の近代 | 一般社団法人日本ライフストーリー研究所 (JLSR) | 山本 哲司 340 |

社会運動

教室 2306
司会者 米澤 旦 (明治学院大学)

- | | | |
|---|----------|-----------|
| 1. ボランティア活動への参加と文化的豊かさ | 同志社大学大学院 | 猿 渡 壮 341 |
| 2. 東日本大震災支援団体の資金構造と「自律性」問題 ——「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成対象団体調査から | 東京大学大学院 | 仁平 典宏 342 |
| 3. 複合的な課題解決能力を組み合わせる社会的企業の動態——ホームレス問題のテーマを中心に | 一橋大学 | 菰田レエ也 343 |
| 4. 若者の運動参加と社会運動の「動態」／「静態」——2000年以降の若年層による社会運動を事例として | 立命館大学 | 富永 京子 344 |
| 5. 社会運動とその敵手の相互行為の析出——占領下沖縄における米軍実弾演習場建設阻止闘争を事例に | 日本学術振興会 | 森 啓 輔 345 |
| 6. 1950年代文化運動における作品発表の場——国民文化全国集会における文化作品発表を事例に | 一橋大学大学院 | 長島 祐基 346 |

環境 (2) (原発問題)

教室 2204
司会者 関 礼子 (立教大学)

- | | | |
|--|-----------------------------------|--|
| 1. 福島原発事故と社会的格差 (1) ——被災者が納得して自己決定できる環境を求めて | ○中京大学
愛知県立大学
中京大学
桃山学院大学 | 成 元 哲 347
牛 島 佳 代
松 谷 満
阪 口 祐 介 |
| 2. 福島原発事故と社会的格差 (2) ——原発事故による影響の社会経済的格差 | ○中京大学
中京大学
愛知県立大学
桃山学院大学 | 松 谷 満 348
成 元 哲
牛 島 佳 代
阪 口 祐 介 |
| 3. 福島原発事故と社会的格差 (3) ——母親のメンタルヘルスの不良持続に関連する要因 | ○愛知県立大学
中京大学
中京大学
桃山学院大学 | 牛 島 佳 代 349
成 元 哲
松 谷 満
阪 口 祐 介 |
| 4. 原子力発電所をめぐる地元意思形成のあり方をめぐって——浜岡原発と地元安全協定 | 静岡大学 | 中 澤 高 師 350 |
| 5. なぜ原発被災地において土地の働きかけは行われるのか——生産活動を行えない人びとの恥の意識を通して | 東北学院大学大学院 | 庄 司 貴 俊 351 |
| 6. 原発再稼働の社会構造——日本学術会議とその構成学会会員の実態から見える原子力社会の政治・権力構造 | 中国瀋陽師範学院
社会学系・ | 宮 内 紀 靖 352 |
| 7. 高レベル放射性廃棄物処分政策における「構造災」再生産メカニズムの検討——継続する「立地問題化」フレーミングと政策の失敗軌道 | 東京電機大学 | 寿 楽 浩 太 353 |

災害 (3)

教室 2207
司会者 速水 聖子 (山口大学)

- | | | |
|--|---------|-------------|
| 1. 新しいステークホルダーの合意形成とコミュニティ再生に関する研究 (1) ——岩手県釜石市における災害公営住宅をめぐって | 岩手県立大学 | 吉 野 英 岐 354 |
| 2. 新しいステークホルダーの合意形成とコミュニティ再生に関する研究 (2) ——宮城県名取市・岩沼市における復興まちづくりの展開と課題 | 尚綱学院大学 | 内 田 龍 史 355 |
| 3. 新しいステークホルダーの合意形成とコミュニティ再生に関する研究 (3) ——いわき市沿岸部の復興と災害公営住宅の課題 | いわき明星大学 | 高 木 竜 輔 356 |
| 4. 防潮堤の高さを巡る住民の論理——岩手県大槌町赤浜地区の蓬莱島を焦点に | 東北大学大学院 | 坂 口 奈 央 357 |
| 5. 津波被災地における震災 5 年後までの意識変化——岩手県大船渡市におけるパネル調査から | 山形大学 | 阿 部 晃 士 358 |
| 6. 東日本大震災被災地の民生委員活動から浮かび上がる民生委員の「専門性」 | 福岡大学 | 本 多 康 生 359 |
| 7. 2016 年熊本地震における要介護高齢者の避難対策と介護保険制度の課題 | 熊本県庁 | 澤 田 光 360 |

知識・科学 (2) (テキストマイニング) 教室 2208

司会者 遠藤 知巳 (日本女子大学)

- | | | |
|--|-----------|-------------|
| 1. 社会科学文献のテキストマイニング——テキストマイニングの社会的利用 1 | 東北学院大学 | 鈴 木 努 361 |
| 2. 女性のミニコミにみる「女性問題」の変遷——テキストマイニングの社会的利用 2 | 首都大学東京大学院 | 樋 熊 垂 衣 362 |
| 3. 90 年代後半以降の日本における語句「ジェンダー」: テキストマイニングの社会的利用 3 | 首都大学東京 | 左 古 輝 人 363 |
| 4. 戦前期清水幾太郎の著作群における「転向」の検討——テキストマイニングの社会的利用 3 | 東京大学大学院 | 品 治 佑 吉 364 |
| 5. 『子供の科学』目次の通時的分析から見る鉄道模型の周縁——テキストマイニングの社会的利用 5 | 東京大学大学院 | 塩 谷 昌 之 365 |

文化・社会意識 (4)

教室 2209
司会者 吉川 徹 (大阪大学)

- | | | | |
|---|-----------|------------|-----|
| 1. 消費文化変容の実証研究——消費三相理論の枠組を応用して | 滋賀大学大学院 | 大西 茂 | 366 |
| 2. 主観的社会的地位と健康——3つの媒介メカニズムの検討 | 東北学院大学 | 神林 博史 | 367 |
| 3. 社会経済的不安と健康志向との関連——東北6県居住者対象の社会調査の分析 | 日本大学 | 三澤 仁平 | 368 |
| 4. 少子高齢社会における富の分配——世代間移転に着目して | 東京大学 | 白波 瀬 佐 和 子 | 369 |
| 5. 「社会移動」概念の再分類と Hold 概念を用いた分析枠組みの検討 (その2) ——青森県出身首都圏在住者の分析に向けて | 首都大学東京大学院 | 成 田 凌 | 370 |
| 6. 健康に関する消費と他者的なものに対する意識の関連 | 弘前学院大学 | 藤岡 真之 | 371 |

社会病理

教室 2210
司会者 岡邊 健 (山口大学)

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1. 死刑存廃論争における世論という論点——「専門家システム」の言論に着目して | 筑波大学大学院 | 新井 大樹 | 372 |
| 2. あの人が自ら命を絶ったのは誰のせいでもない——自死遺族が近親者の自殺をめぐる責任帰属活動から〈おりの〉方法の考察 | 大阪市立大学 | 藤原 信行 | 373 |
| 3. 犯罪被害者支援と Restorative Justice に関する歴史社会学的考察 | 筑波大学大学院 | 岡村 逸郎 | 374 |
| 4. 韓国における少年非行の減少傾向に関する考察 | 筑波大学大学院 | 印 粲 旭 | 375 |
| 5. 「運動」としての児童養護問題の再編活動——1970-80年代初頭の日本社会に焦点を当てて | 徳島大学 | 土 屋 敦 | 376 |

福祉・保健・医療 (4)

教室 2211
司会者 金子 雅彦 (防衛医科大学校)

- | | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 1. 薬物依存からの「回復」における「棚卸し」と「埋め合わせ」——ダルクメンバー／スタッフの「回復」における困難とその克服 (1) | 埼玉県立大学 | 相 良 翔 | 377 |
| 2. 「回復」し続ける自己物語の維持——ダルクメンバー／スタッフの「回復」における困難とその克服 (2) | 東京学芸大学 | 伊藤 秀樹 | 378 |
| 3. プロセス嗜癖の自助グループにおける「共に〈回復〉する」ことの難しさ——〈ネット・ゲーム依存〉をめぐる語りから考える | 立教大学 | 福 重 清 | 379 |
| 4. 〈居場所〉概念と実践の可能性——NPOにおける一活動を通じた分析 | 東京大学 | 田中麻衣子 | 380 |
| 5. 北海道浦河町の「べてるの家」における「場所性」の問題——アイヌの歴史・文化とキリスト教文化の影響の視点から | 東海学園大学 | 早野 禎二 | 381 |
| 6. オルタナティブな社会空間の形成——障害者をめぐる地域活動を事例に | 一橋大学大学院 | 加藤 旭人 | 382 |

福祉・保健・医療 (5)

教室 2303
司会者 渡邊 大輔 (成蹊大学)

- | | | | |
|---|--|-----------------|-----|
| 1. 社会保障の現状と課題——介護を事例として | 流通経済大学 | 宇野 点子 | 383 |
| 2. Beyond familism: the development of community based old age care in China | Southwestern University of Finance and Economics | Z h a n g L e i | 384 |
| 3. Comparison and evaluation of the financing system of China's urban social security before and after its reform | Xiamen University TTK College | HUANG Guan | 385 |
| 4. Do Pension Crowd In or Crowd Out Intergenerational Financial Transfer in Chinese Family | the Chinese University of Hong Kong | Geng Yanling | 386 |
| 5. 中国農村部における貧困扶助開発の変容——体制転換の視点を取り入れて | 京都大学大学院 | 徐 堯 | 387 |

子ども・青年・中高年

教室 2212

司会者 芳賀 学 (上智大学)

1. グローカル化する若者文化 (1) 若者のグローバル意識・行動の多様性 中央大学 松田 美佐 388
2. グローカル化する若者文化 (2) 若者のグローバル意識の規定構造 東京学芸大学 浅野 智彦 389
3. グローカル化する若者文化 (3) ——地元志向の現在 中央大学 辻 泉 390
4. グローカル化する若者文化 (4) 性の不活発化と親密圏の変容 首都大学東京大学院 大倉 韻 391
5. グローカル化する若者文化 (5) ——人格類型の再考 首都大学東京 野村 勇人 392
6. 高校中退者の就労をめぐる語り——ライフストーリーにおける特異な位相 中央大学 古賀 正義 393
7. 日本人ワーキング・ホリデーメーカーの経験とキャリア形成——制度利用者の帰国後の事例調査 明治学院大学 大井 真澄 394

民族・エスニシティ (3)

教室 2309

司会者 小ヶ谷 千穂 (フェリス女学院大学)

1. ロジャース・ブルーベイカーの認知的アプローチ——その人種・エスニシティ・ネーション研究についての意義 法政大学 佐藤 成基 395
2. 震災と多文化共生——東北朝鮮学校の歴史から考える 早稲田大学 加藤 恵美 396
3. 日本人ムスリム女性のアイデンティティ・マネジメント——ライフ・ヒストリーに基づいて 近畿大学 安達 智史 397
4. Placing Trust on Online Traceability to Verify Halal Product Information Universitas Muhammadiyah Malang Djoko Sigit Sayogo 398
5. 西欧ムスリム移民二世の卒業小中学校における生徒の出自別構成と食行動の「再イスラーム化」 早稲田大学 小島 宏 399
6. Punjabis in Italy Hastir Rosy 400

国際・エリアスタディ (2)

教室 2201

司会者 尾中 文哉 (日本女子大学)

1. 北タイ、チェンマイの宗教復興と地域社会の現在——精霊信仰と霊媒術を巡って 滋賀医科大学 福浦 一男 401
2. カンボジア・モン・ラオス系アメリカ人と労働市場格差 日本大学 武井 勲 402
3. ベトナム学生の就職意向と自己効力感に関する研究 ○岡山大学大学院 馱田井 久 403
ノートルダム清心 二階堂 裕子
女子大学
4. 「日本の食文化」のグローバル化: 中国上海の寿司店における寿司職人のカウンター接客 名古屋大学 王 昊 凡 404
5. 零細鉱業の社会的役割の検討——タンザニアの鉱山コミュニティにおける零細鉱業の社会セーフティネット 秋田大学 藍澤 淑雄 405
6. タイの都市におけるコミュニティ施策とカナカマカーン・チュムチョン——バンコク近郊パークレット市を事例に ○福島大学 牧田 実 406
宇都宮大学 KAEWMANOTHAM MALEE
7. 文化資源の利用をめぐる自己と他者 関西学院大学 林 梅 407

歴史・社会史(3)

教室 2301

司会者 澁谷 知美 (東京経済大学)

1. 「嗜好」をいかに言語化するのか——明治・大正期における「嗜好品」をめぐる広告実践から 公益財団法人 たばこ総合研究センター 團 康 晃 408
2. 19世紀末における「外見」の発見——「東京百美人」の写真に着目して 日本女子大学 木村 絵里子 409
3. 凶画をわいせつである / ないものとして見ることの「恣意性」再考——愛のコリーダ事件を事例として 東京大学大学院 岡 沢 亮 410
4. 漱石を巡る闘争——「木曜会」共同体にみるホモソーシャルな関係性 京都大学大学院 椎 名 健 人 411
5. 朱鞠内の掘り起こし運動にひらかれる歴史和解——国民国家の周縁で捉え直す社会のありよう 東京大学大学院 リー ローサ セツピョル 412
6. 官立高等商業学校教育における人格養成——彦根高等商業学校本科の「哲学概論」と「文化史」をめぐる 滋賀大学大学院 今 井 綾 乃 413

Session in English(3)

教室 2302

司会者 今井 順 (北海道大学)

1. Assessing the Gap between Objective Class Position and Subjective Class Identification: Utilizing Neighborhoods Effects Korea University Kim, Andrew Ho 414
2. The resolving mechanism of “the predicament of helping the falling olders”——An experimental study Xi'an Jiaotong University L i u J u n 415
3. Unequal Life and Informal Economy in Thailand Chulalongkorn University Charoenratana Sayamol 416
4. Acceleration and Efficiency of Informational Labour in Colonial Taiwan, 1918-1930 S h i h H s i n University Hsiao Hsuchih 417

社会学における概念・理論・方法の移植 (transplant) II (テーマセッション 10)

教室 2215

司会者 流王 貴義 (東京女子大学)

1. 関連性体系からみた和洋の社会学用語のズレと“統治志向バイアス” 元武蔵大学 藤 田 哲 司 418
2. 「コミュニティ」概念の移植と一般化——地域社会研究所の啓蒙教育活動に着目して 東京大学 渡 邊 隼 419
3. 確率論的リスク研究と社会的な選択や決定に関わるリスク研究の架橋 成蹊大学 川 端 健 嗣 420
4. 「移植」と「ズレ」の思想家としての作田啓一——思想の生成過程から考える 立教大学 片 上 平 二 郎 421
5. 生世界をめぐる哲学的思考の移植の運動としての「現象学的社会学」 東京大学 高 艸 賢 422
6. 粗悪品としての社会システム概念 東京女子大学 赤 堀 三 郎 423

戦争研究の現代的課題 (テーマセッション 11)

教室 2308

司会者 野上 元 (筑波大学)

1. 地域における軍用施設に対する住民の意識の変化——東京都北区を例として 一橋大学 那 波 泰 輔 424
2. アジア太平洋戦争における徴兵の可能性と死亡リスク——戦争研究への社会調査データの活用可能性 関西学院大学 渡 邊 勉 425
3. 戦時体制における保育園——愛育隣保館・戸越保育所における疎開保育から 筑波大学 大 石 茜 426
4. 戦争における性淘汰・血縁淘汰・群淘汰——社会生物学アプローチの可能性 奈良大学 尾 上 正 人 427

農業・農村地域の社会解体的危機に抗する〈住民の力〉(研究活動委員会企画テーマ
セッション5)

教室 2216

司会者 西村 雄郎 (広島大学)

1. 「地域の『農』をあきらめない」人びと——宮城県大崎市における協業事例 岡山大学 藤井 和佐 428
2. 農山村集落における茶生産の有機農業化・共同化の意味——浜松市天竜区春野町の事例から 静岡文化芸術大学 船戸 修一 429
3. 社会解体的危機に抗する大分大山町農協の取り組み 同志社大学 加藤 泰子 430
4. 定住促進による地域の社会解体的危機への対抗——京都府綾部市の事例から ○愛知県立大学 松宮 朝 431
同志社大学 鱒坂 学
同志社女子大学 河野 健男
龍谷大学 妻木 進吾
5. 北海道十勝地域における若手農業者・産業人の新たな農業・農村地域の模索——「十勝人チャレンジ支援事業」採択者に焦点をあてて 高知大学 佐藤 洋子 432

「フクシマ」をひらく——原発事故をめぐる社会の現在と未来 (開催校企画テーマセ
ッション) 433

教室 2403

司会者 稲月 正 (北九州市立大学)

1. 原発避難者よ、「帰れない」と声を上げよ——帰還政策が推進される本当の理由 首都大学東京 山下 祐介
2. 平常化する地域社会の見えない避難 福岡県立大学 田代 英美
3. 3.11以降の母親としての市民活動：子どもたちを放射能から守る全国ネットワークの事例 German Institute for Phoebe Stella
Japanese Studies Holdgrün
4. 被災地／避難先にく住むということ——ハイデガー哲学の視点から 九州大学 鍋木 政彦

特別発言：市村高志 (NPO法人 とみおか子ども未来ネットワーク) 討論者：吉原直樹 (大妻女子大学)
コーディネーター：直野章子

高齢者のケアをめぐる現在と未来：個人・コミュニティ・国家 (日韓ジョイントパネル)

教室 2304

司会 金香男 (フェリス学院大学)
伊地知紀子 (大阪市立大学)

1. 東アジアのグローバル化するケア労働：移民レジームとケアレジームの交錯点から 九州大学 小川 玲子
2. 東アジアの福祉ギャップ——家族と国家をめぐる比較社会的考察 名古屋大学 上村 泰裕
3. The Emergence of Active Ageing Generation and Its Social Implication in South Korea 高麗大学 イ・ミョンジン
4. 老人長期養老保険の導入と高齢者ケアの再編 ソウル大学 キム・チヨン

シンポジウム2 連動企画：映画『首相官邸の前で』上映＋トーク

教室 2406

司会者 稲葉 奈々子 (上智大学)

1. 趣旨説明：小熊英二 (慶應義塾大学) 2. 『首相官邸の前で』上映 (107分) 3. コメント：稲葉奈々子 (上智大学)

韓国社会学会会長講演 (10月9日(日)13時20分～14時00分)

Health and Social Policies for Ageing Population in Korea

教室 2407

韓国社会学会会長

CHO Sung Nam 433

ポスターセッション (10月9日(日) 10時30分～13時00分)

教室 2103

- | | | | |
|--|----------------------|------------------------------|-----|
| 1.DDI と R を利用した社会調査の統合環境 | 関西学院大学 | 中野 康人 | 434 |
| 2. 二国間経済連携協定 (日尼 EPA) に対する評価 —— 帰国したインドネシア人看護・介護職に対するパイロット調査から | ○長崎大学大学院
インドネシア大学 | 平野 裕子
Rahardjo Tribudi W. | 435 |
| 3. 農地の流動化と農民の老後生活保障について —— 中国湖北省の事例を手掛かりに | 岩手県立大学 | 劉 文 静 | 436 |
| 4. アソシエーションナリズム・リバイバルと民主的ガバナンスをめぐる課題 —— ハイブリッド型組織の可能性 | 中部学院大学 | 福地 潮人 | 437 |
| 5. キリスト教系幼稚園保育者の社会的ポジション —— 明治期から昭和戦後期にかけて | 頌栄短期大学 | 高山 育子 | 438 |
| 6. 鶴見俊輔「旧蔵書」にみる思想形成の基盤 | 明星大学 | 寺田 征也 | 439 |
| 7. ポスト産業都市におけるイメージ形成の政治 —— 名古屋市のデザイン都市政策を中心に | 椋山女学園大学 | 木田 勇輔 | 440 |
| 8. 女性の配偶者探索行動の日米比較分析 | 東京大学 | 茂 木 暁 | 441 |
| 9. 「医学的に説明されない症候群」をめぐる因果性のせめぎあい —— 化学物質過敏症を事例として | 京都大学 | 景山 千愛 | 442 |

シンポジウム (10月9日(日) 14時00分～17時30分)

シンポジウム(1) 東日本大震災——津波被災地の5年後の検証

教室 2404
司会者 浦野 正樹 (早稲田大学)
加藤 眞義 (福島大学)

1. なぜ、大量の犠牲者が出てしまったのか——戦後日本の防災対策のパラダイム転換を 名古屋大学 田中 重好 443-444
2. 支援の創発性を生む社会的条件——災害支援の新しいかたち 名古屋大学 黒田 由彦 445-446
3. 津波被災地の復興の現状と問題点——被災後の地域社会の持続はいかにして可能か 岩手県立大学 吉野 英岐 447-448

討論者：浅川達人 (明治学院大学)、大矢根淳 (専修大学)、浅野幸子 (減災と男女共同参画研修推進センター)

シンポジウム(2) アクティビズムの再興？——政治—社会関係から考える

教室 2406
司会者 青木 聡子 (名古屋大学)
西城戸 誠 (法政大学)

1. 日本政治文化の構造変動：原発事故後の抗議活動を手がかりに 慶應義塾大学 小熊 英二 449-450
2. 保守化する日本政治の社会的起源 ソウル大学 朴 喆熙 451-452
3. 日本の政治変動と社会運動：左右の動員から考える 徳島大学 樋口 直人 453-454

討論者：北田暁大 (東京大学)、松井隆志 (武蔵大学)

日本学術会議社会学委員会社会理論分科会主催

公開シンポジウム コミュニティを問い直す——社会関係資本の光と影 455-457

教室 2403
司会者 友枝敏雄 (大阪大学、日本学術会議会員)
町村敬志 (一橋大学、日本学術会議会員)
山田真茂留 (早稲田大学、日本学術会議連携会員)

1. 個人化のもとで共同体はいかにして可能か 東京工業大学 今田 高俊
2. 合理的選択理論から見た社会関係資本とコミュニティの関係 東北大学 佐藤 嘉倫
3. ネオリベラリズム、脱政治化とコミュニティの危機 福岡県議会議員 堤 かなめ
4. 寛容から問うコミュニティ 九州大学 三隅 一人
5. 合意に至らないコミュニティの可能性 一橋大学、成城大学 矢澤 修次郎